

会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)	川西市廃棄物減量等推進審議会		
事 務 局 (担当課)	美化環境部 美化環境室 美化推進課		
開 催 日 時	平成27(2015)年2月13日(金) 10時00分～12時00分		
開 催 場 所	市役所4階 庁議室		
出 席 者	委 員	豊福俊英、花田真理子、河野智子、横谷弘務、轉保麻子、北 稔、森 豊、佐藤恵美、杉岡 悟	
	そ の 他		
	事 務 局	美化環境部長、美化環境室長、美化推進課長、美化推進課副主幹、	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第	1. 開会 2. 議事 (1)川西市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について (2)その他 3. その他		
会 議 結 果	別紙 審議経過のとおり		

審議経過

会長	<p>1. 開会</p> <p>それでは、ご案内しておりました時間が参りましたので「平成 26 年度第 1 回川西市廃棄物減量等推進審議会」を開会いたします。</p> <p>皆様本日はご多忙にもかかわらずお集まりいただきありがとうございます。</p> <p>最初に本日の委員の出席状況について、事務局より報告をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、ご報告申し上げます。本日の出席状況は、委員 10 名中、西谷委員からご欠席の連絡をいただいております。また、杉岡委員につきましては、ただ今こちらの方に向かっており、少し遅れると連絡を受けておりますので、現在の出席者は 8 名になります。</p> <p>つきましては、会議開催要件である過半数の出席者をいただいておりますので、本日の審議会は成立しておりますことをご報告申し上げます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。それでは本審議会は成立しているということですので、早速議事を進めたいと思います。</p> <p>まず始めに、委員の変更がございますのでご紹介していただきたいと思います。</p>
事務局	<p>それでは、委員の紹介をさせていただきます。なお、辞令は机上に配付させていただいております。</p> <p>市民団体の P T A 連合会から選出いただいております、畠中委員が任期満了となられまして退任され、新たに委員として着任されました轉保委員でございます。</p>
委員	<p>失礼いたします。P T A 連合会平成 26 年度の市会担当副担当理事会担当の副会長をさせていただきます。轉保麻子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>ずっと伊丹の文化振興財団というところで働いておりました、今は伊丹市立文化会館で働いております。なるべく出席したいと思っておりますが、何分都合がつかないときはご容赦いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
豊福会長	<p>それでは、本日の審議会の議事内容について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、本日の審議会の議事項目についてご説明させていただきます。</p> <p>去年の 3 月に開催致しました、平成 25 年度第 6 回川西市廃棄物減量等推進審議会におきましてお伝えさせていただきましたが、今年度の取り組み状況などを委員の皆様にご報告させていただきたいと思っております。</p> <p>その他といたしまして、「会議録の確認について」を行いたいと思っております。</p> <p>それでは資料の確認をさせていただきます。机上に配付させていただいておりますので、順に説明をさせていただきます。</p> <p>資料 1 「次第書」</p>

資料 2「会議公開運用要綱」と「会議公開に係る傍聴要領」

資料 3「川西市のごみの排出量」

資料 4「家庭ごみ量速報」

「Rかわにし」

左上に「市民の皆さまへ」とあります「スリムちゃんからのお願い」No1とNo2のチラシ

同じく「市民の皆さまへ」の「スリムちゃんからのお知らせ」のチラシ

資料 5「平成 26 年度出前講座実績」

資料 6「子ども向けごみ学習会（平成 26 年度）実績一覧」

資料 7「市制施行 60 周年記念事業 ラッピングパッカー車運行について」

資料 8「夏休み親子で国崎クリーンセンターバスツアー活動報告書」

資料 9「キッズ『り・ぼ・ん』ミニ」アンケート集計表

資料 10「市立川西病院まつり報告書」

資料 11「委員名簿」

以上でございますが、ご確認いただけますでしょうか。

なお、本日の会議につきましては、12 時頃終了を考えております。以上でございます。

会長

まず始めに、事務局から事務連絡があるとのことですのでよろしく願います。

事務局

それでは、資料 2 についてご説明させていただきます。

本審議会については、会議公開があります。会議の終了後、1 ヶ月以内に会議録を作成し審議会に承認をいただき、公開することとなっております。このため事務局で会議の録音と若干の写真撮影をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願います。以上でございます。

会長

では、次第にしたがって議事に入らせていただきます。

議事の 1、「川西市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について」を議題とします。事務局より説明をお願いします。

事務局

それでは説明させていただきます。本日の会議でございますが、大きく分けましてまず最初に、平成 26 年度、前回の審議会を終えた後、今までの 1 年間の我々の啓発を中心としました活動のご報告と、それから後半では 25 年度にいただきました答申の 4 つの提言、これがどのように進捗しているかということのご報告と、この二つの柱で進めさせていただきたいと思っております。

川西のごみの排出量がどうかという点でございます。25 年度の審議会におきましては、平成 24 年度までの数値をお示しさせていただいたと思っておりますが、25 年度の数値も出ましたのでそれを合わせてご報告いたします。

資料 3 の上のグラフをご覧ください。棒グラフが川西市の 1 年間の全てのごみの総排出量を示しております。25 年度 53,722 t ということで、前年 24 年度から比べます

と大体 780 t ぐらいですか、ごみが減りました。ここ近年でこれぐらい減ったということがなかったことで、それに従いまして市民 1 人 1 日あたりの平均しましたごみの排出量も前年度の 929 g から 916 g と 13 g 減となっております。これもここ数年ではなかったことであります。

その一方で、下のグラフのリサイクル率ということで、総ごみ量の中で資源物が占める割合、紙とか、プラスチック製容器包装等々、ペットボトルもそうですが、その比率を見ますと、25 年度 23.4% ということで、前年と比べますと 0.3 ポイント減少しております。このリサイクル率、ご覧のとおり平成 21 年度以降毎年減っております。この数値は、本来は上げていくべきだというふうに我々は思っておりますけれども、それに反しまして減ってる。つまり資源物の割合が減っているということで、詳しいことは十分に分析はできておりませんが、何か問題、課題があるのかなということがあると思います。

裏面をご覧くださいますと、またグラフを挙げますが、市の方で再生資源集団回収という事業で、自治会や子ども会等で再生資源物の回収に携わっていただいている、それを支援しているというところがあるんですが、その集計をしますと 25 年度、棒グラフをご覧くださいますと、グロスの量でございますが前年度より減りまして、6,725 t でございます。前年と比べますと 270 t ほど減少しております。折れ線グラフの方は取り組んでいただいております登録団体の数でございますが、これにつきましては 3 団体ほど増えております。団体数は増えておりますが総トータルは減っているということで、これも今後何か支援の見直しが必要なのもかもしれない。ちょっとこれも検討していかなければいけないかなと思っております。ごみの排出量につきましてはこういう状況でございます。

それでは、26 年度一年間の活動の実績をご報告させていただきたいと思っております。お手元の資料 4 をご覧ください。26 年度、年度途中で今 2 月でございますが 12 月までの数字が手元に上がってきておりますので、それを 25 年度と比較してのご説明をさせていただきます。

資料 4 の横長の最初の数字の表は、左に 25 年度、右に 26 年度、月毎の収集量、これは家庭ごみでございますので、集団回収で上がってきますものや国崎の方に直接持ち込むもの、事業系につきましては含んでいない、純粋に家庭のごみというものでございますけれども、収集量のトータルと月毎に足した累計、さらに 1 人 1 日あたりの排出量を計算して求めます。

25 年度 26 年度の一番下から二つ目の行の 12 月の欄をご覧くださいますと、25 年度の 1 人 1 日あたりの排出量が 631 g に対しまして、26 年度は 613 g で前年比 18 g でございます。一番右の列にはそれぞれの月の前年比をお示しさせていただいております。4 月では前年比 21 g とか、5 月は前年比 7 g、それぞれマイナス。6 月は 22 g 増えておりますけれども、以下三角がついているところが目立っているのかなということで、26 年度につきましても最終はまだ出ておりませんが、25 年度に引き続き前年に比べたら減っていったのかなというような気配を感じております。

1 枚めくっていただきますと横長の帯グラフを載せておりますが、先ほど申しあげました家庭ごみ量で、4 月から 12 月、それぞれ 25 年 26 年度の 4 月から 12 月までの

数字を、ごみの種別、種類ごとに示させていただいております。一番左の青いのが燃やすごみでやはりこれが全体の4分の3ぐらいですか、占めておまして、燃やすごみ上下で見ていただきますと、25年度26年度に対しまして若干減ってるかと思いません。

その他順に追っていきますと、プラスチックこれも若干減っているかな、ペットボトル、大型ごみ、燃やさないごみ、有害ごみ、ビン、カン、紙・布というような構成比となっております。

これをもう1枚めくっていただきますと、それぞれのごみの種別ごとのごみの平成25年度の排出量を100といたしました場合の、26年度12月までの数値につきましては、燃やすごみは100に対して99と比率的には変わらないですけども、プラスチックは96、次にペットボトルは89と、11%ですか、減っております。大型ごみ等他ですね、90…なんぼという数字でございまして、右から二つ目の紙布は逆に103と前年よりも若干増えておる状況が出ております。

一番右の方には赤い帯で、合計、全体といたしましては前年と対しまして1%減っているという状況です。

今までの中で、ひとつ紙布がどうしてここで伸びているのかなということも考えてみたところですが、先ほどの資料3の方では、集団回収でだいぶ回収量が減っているというお話をさせていただきました。集団回収は、やはり新聞紙等の紙が一番比率が多いものでございまして、集団回収で減ってますところに対しまして家庭からの分は増えているということで、集団回収としての回収は減ったのが家庭の方に若干回っているのかなという点が一つ考えられるのかなと、推測でございんですけども思っております。

ただし、集団回収と家庭から出ています紙のトータルは減っております。紙布の量は減っているということですので、これは一般論でございんですけども、日本全国の話としましてよく言われます、新聞を取る家庭が減っているということです。これが一つ考えられるのかなと思います。ただし、川西に特殊な要因があるかどうかというのは、ちょっと今のところ分かっていないので、今後また引き続き様子を見ていきたいというふうに思っています。以上が最近の川西のごみの量的な部分でございまして。

続けてご説明させていただきます。審議会におきましても、市民に対して啓発を充実して行ってくださいというお話を頂戴しましたので、我々も以前からやっています啓発に対して色々と工夫を重ねて参ったところでございまして。平成26年度はその一端をご紹介しますのでございます。

会長

ちょっとよろしいですか。この配られている資料を言ってください。この審議会でも審議し答申されている検討施策1、2、3、4が今説明されようとしていますので。

事務局

えっと、すみません。お手元の方に資料で、資料の番号を打ってないんですけども、一番最後の方に「検討施策1：啓発ツールの作成・活用」という題名のものがあって2枚綴り裏表に印刷してあるんですけども、25年度にいただきました答申の中で4つの検討施策の提言、これを抜粋してその原文のまま再編集でお示しさせていただいてる

ものでございます。

会長

ちょっとすみません。初めての方もおられるから確認ですけども、この4つを審議会から市の方へ提言しております。

事務局

その検討施策1の方で、「啓発ツールの作成・活用」ということで、啓発の仕方、ツールの工夫をもっと充実させようというご提言をいただいております。それに基づきまして今までやってました啓発活動なんかにも、ちょっと工夫を加えさせていただいたところでございます。

それに基づきまして、26年度に行ったもの、まず、お手元の資料の「Rかわにし」という、この最初に漫画が載っています分でございます。「Rかわにし」でございますけども、従来からも年に2回発行しておりました。色々それまでにも工夫を凝らしておったんですけども、やはり字が多いとか情報の記載の仕方がもっと工夫がいるんじゃないかというご提言もいただきましたので、去年の7月号からはイメージを変えましてビジュアルって言うんですか、見て楽しめるような編集を心掛けております。ご覧のとおり例えば1面捲っていただきますと、見開きで漫画を載せております。この漫画でございますけども、川西の方では減量のチャレンジモニターという市民参加の活動をしております。そのOGさんで非常に絵が上手な方がおられましたので、その方に無理お願いしまして、こういう漫画を描いてもらいました。これを発行した後お葉書なんかでご意見いただいたんですけども、よかったという声は何通か我々の方に来ております。その他のページにつきましてもなるべく絵を使って自然に見ただけのような工夫をさせていただいております。

で、これ、26年の7月でございましたけども、今度3月の1日にも全戸に配布をさせていただこうということで、この続きのバージョンを今準備しているところでございます。で、そっちの方でいよいよカラー、フルカラーでの編集をやらさせていただきます。広報誌に挟んでいる中では中々こういう二色刷りでは見分けが付き難いというご意見もありましたので、カラーで刷らさせていただいて目立つようにしております。また漫画の続編も載りますので、市内の方におかれましては楽しみにしていただければというふうに思っております。

次にお手元の資料で、このカラーで2枚右肩上に「スリムちゃんからのお願い No1、No2」ということで、こういうものを、これ実は26年度から初めてやったものでございますけども、No1は「水切りダイエットを始めましょう」水を切ることで、かなり減量となりますよということ。No2は「ペットボトルは洗って、つぶして出してくださいね」というようなこと。これは自治会を通じまして、回覧をお願いして市民の方に見ていただいております。この審議会の中でもテーマを絞って具体的な減量の方法、テクニックなんかを中心に伝えたらどうかというご意見がございましたので、それを基にこういうチラシを作りまして、夏以降今までに2回各自治会さん、それから公民館なんかにも置いて市民の目に触れるようにしております。これも回覧をお願いしましたところ、具体的にこうすればいいんだということが分かってよかったというようなご意見も頂戴したところでございます。これも引き続き年に何回がずつですけども

出していきたいなというふうに思っております。

またもう1枚捲っていただきますと、似たようなスタイルですけども、上に「キッズ『り・ぼ・ん』」と書いたチラシもご用意させていただいております。「キッズ『り・ぼ・ん』」毎年1回子どもさんに来ていただいて、エコとか美化とかいうことを体験してもらおうというようなイベントをやっておりまして、今まで毎年国崎クリーンセンターの啓発室のゆめほたるなんかでやっておったんですけども、地理的な条件もありまして、今回は市役所の方で来月、3月14日に土曜日でございますけども、市役所の1階の市民ギャラリーとか、その前の市民広場なんかを中心にやらしていただくということで、市の中心部に持ってきましたのでだいぶ参加していただける子どもさんも増えるのかなと、増えてほしいなということで思っております。

「キッズ『り・ぼ・ん』」ですが、ここにありますような、色んなメニューを用意しておりますし、ごみのこと以外にも例えばうちの美化環境部でやっております犬猫のしつけの相談でございますとか、環境関係、公害関係も別のセクションでもっておりますので、「大声で叫ぼう」、持ってあります騒音の測定器の前で大きな声を出してもらって「何ホーンだ」というような、こういう企画も考えています。

こういうふうに、美化を中心、ごみを中心にして環境部全体で取り組むようなイベントも今回やらしていただくということで、これも広報誌とか、こういうチラシで市民の方に参加を呼び掛けております。

続いて資料5、横長の方のご説明をさせていただきます。出前講座を従前からやっておりました。自治会さんとかコミュニティさんとか色んなところからお声をいただきまして、出かけていまして分別とか減量のお話しをさせていただいている。また国崎クリーンセンターの見学なんかもさせていただいてるというようなことでございますけども、平成26年度今現在まででしたら今後の予定も含めまして10回を実施済又は実施予定と出しております。今のところでは、トータルで一番下にありますように151人の方にご参加いただきまして、いずれも非常に好評であるというお声をいただいております。またその後ろには、その出前講座の様子を写真でお示しをさせていただいております。

この出前講座、特に国崎クリーンセンターを見学いただきますと非常によかったというお声がありますので、国崎クリーンセンターへの方にも足を運んでもらえるように啓発をしていきたいと思っております。

続きまして資料6でございますが、先ほどの出前講座がやや大人向けでございますけども、こちらは子ども向けの学習会の実施の状況でございます。幼稚園ですとか、保育所、小学校、また一番下にありますように中学校までですね、学習会をしてほしいというリクエストに応じて、うちのスタッフが行ってます。全部で今のところ12月まででございますが20回させていただきました。参加者の合計で一番下にありますけども2,000人弱の子どもたちに話を聞いてもらいました。

次のページにありますように、写真でお示しさせていただいておりますように、うちの名物のクリンジャー、一番上の左に赤青黄色の3人おりますけども、これうちの収集の職員です。それが工夫を凝らしまして、こういうふうにクリンジャーというキャラクターに変身しまして子どもたちに啓発をしている。その後ろでは、女性のスタッ

フですけども、うちのキャラクターであります「スリムちゃん」と「ぷっくりごみくん」のぬいぐるみを抱えまして、こういうこともやりまして寸劇もして子どもたちに非常に好評をいただいております。

その右側の写真をご覧くださいますと、園庭にパッカー車を持ち込みまして、子どもたちに危険じゃない状況にしましてパッカー車にペットボトルの投入体験なんかをしていただいています。普段パッカー車の傍に寄れない訳ですけども、こういう日に限ってはこういうふうにごみを回収するんだよということを見てもらっています。

それから次に資料7でございますが、川西去年の8月1日に市制60周年を迎えまして、その方を中心に1年間60周年の周年記念として、様々な事業を展開しました。

その中でうちの美化推進課としましては、パッカー車にラッピングを施して、これを記念行事としてやらせていただきました。パッカー車3台にラッピングをして、下の写真にありますようにクリンジャー号、先ほど申しましたクリンジャーの絵を左右に描いたもの、これが子どもの学習会なんかでよく持って行って人気でございます。また裏面でございますけどもキッズドリーム号ということで、我々の分庁舎の隣にあります川西北保育所さんの子どもに絵を描いていただきました。普段から我々とは非常にクリンジャーなんかを中心として交流をさせていただいているんですけども、その子どもたちが描いた絵を貼っております。

3台目は、ハッピーパッカー号ということで、市民の皆さんに写真、笑顔の写真を募集いたしまして約20人の方から、こんだけの写真、左右それぞれなんですけども、その写真をコラージュして両面をラッピングをいたしまして発車しました。この3台をラッピングパッカーとして60周年記念事業にさせていただきました。これを発車することで我々としましては啓発活動を重視させるということとともに、ごみの収集作業に親しみを持っていただいたらごみ出しのマナーもよくしていただけるのかなということ。また我々の職員の、やる気、待遇なんかも上げていきたいというようなことでこういうことを担ってやっております。

この車は60周年といたしますけども、60周年越えた今年も当分発車していこうということで、日々市内を走り回っております。

更に資料の8でございますが、先ほども申しあげましたように、国崎クリーンセンターの見学ということが非常にごみの減量とか分別に効果があるということでございますので、夏休みに親子で見学するバスツアーを企画させていただきました。7月29日でございます。募集しました10人の親子に来ていただきまして、チャレンジモニターさんにも一緒に入ってもらいまして、全部で28人で参りました。国崎クリーンセンターの中を見た後、段ボールでフォトフレームづくりということで工作なんかもしました。

裏面には参加者の感想もいただいております。「普段見ることのできない施設を見学できて良かった」「夏休みの思い出ができた」「エコについて考えることができた」ということで、いずれも参加してよかったということでお声をいただいております。

続きまして資料の9でございます「キッズ『り・ぼ・ん』ミニ」ということで、先ほど3月14日にご案内させていただいたのが「キッズ『り・ぼ・ん』」というイベントでございますけども、そのミニチュア版を11月に中央公民館を中心とした場所で

やらせていただきました。出店者の、そこでは子どもが持ち物の交換なんかをする子どものお店を開いたんですけれども、出店者9人でそれ以外にもお客さんとして参加された子ども達もたくさん来ました。様子の方はここにあります写真のとおりでございます。非常に楽しかったという声、又、物を大切にするというような意識が思った、というような反応をいただいております。このイベント、子ども達が自分達のを交換していくということで、本当でしたらごみとして捨ててしまうようなものを他人に譲る、貰ってもらうということで、「あっ、捨てなくて済むんだ」「私はもういらないけれど、欲しい人がいるんだ。そしたら物がごみにならないで、また有効に活用されるんだ」ということを、肌をもって体験してもらったというふうに思います。

続いてさらに資料の10でございますけれども、また同じ11月29日には、市立川西病院の方で、病院さんの方が「川西病院まつり」という企画をなされました。そこで色々な病院でございますので、健康の関係の出し物が多かったりしたんですけれども、我々の方も参加させていただきまして、そこに来た子ども達を中心とした人たちにクリンジャーなんかも参加しまして、ペットボトルの分別を説明さしてもらいました。その後、分別体験それからパッカー車に投入体験等やらしていただきまして、当日はこういうふうに裏に写真出しておりますけれども、子ども達たくさん集まってもらいまして、身近にパッカー車を見たり乗ったりする体験、さらに裏の一番下の写真でございますけれども、消防さんの方がパッカー車の中で、もし中身の入ったガスボンベが爆発したらどうなるのかというような模擬の実験を披露していただきました。パッカー車の中でよく爆発事故というのが起こるんですけれども、それはガスボンベなんかを使い切らずに捨てた場合なんかには発生するということの危険性を啓発してもらいました。こういうイベントも我々の方で参加をさして実施をいたしました。

ということで、こういうことを中心としまして、他にも今までやっておりました「り・ぼ・ん」という冊子で不用品の交換なんかのお手伝いもさしてもらったり、イベントと啓発以外にも先ほど申しました再生資源集団回収に対する支援、それから生ごみの処理機に対します助成等々、そういうのもやっております。26年度につきましては特に目立った活動として、以上のことをご報告させていただきました。

以上で実績報告でございます。

会長

ありがとうございました。

今説明されていましたが、一番最初の資料3についてですが、この目標はあくまで1日1人ですね、100gを見たときに916gというのが25年という数字になっていますが、目標年度に対しては目標値は828ですね、そういう数字ですので、916ですとまだそれでも、目標は横ばいだったのが若干減ってきたというのがお分かりいただけたかと思うんですが。資料の3の一番上の図ですね。

ただその916っていうのが、あくまで当初の927.6から比べると10から20までいってないんですが、まだいってませんよという現状ではあります。減ってはいるんですけど水を差してはいけないんですが。まだまだ目標としてはですね、要するに100に対して10ぐらいの減少ですよということを、皆さんがご理解いただければと思います。

	<p>何か皆さん、今のご説明に対してご意見がございましたらお願いいたします。沢山の色々、施策に対してこれまでの流れの中で今説明されてこられた訳ですが。</p>
委員	<p>大変よく、説明資料が分かりやすく、ありがとうございます。</p> <p>子ども向けごみ学習会、非常に活発でよかったと思いますが、まだまだこれ小学校も中学校もまだ開催していないところがあるのではないかと思いますので、今後も引き続き実績を上げていただきたいと思います。</p> <p>それから、昨年度から出前講座等で、私どももよく話をしてましたけども、この実績を見ると私のコミュニティの関係のあるところは3団体出てますのでね、まずまずかと思えますけども、こういったことも併せて地道に推進をお願いしたいと思います。</p>
会長	<p>他にございませんか。</p>
委員	<p>この子ども向けごみ学習会なんですけれども、私の子どもも平野子ども会といって8月に、ちょっと私は仕事で行けなかったんですが凄くよかったようで、いくら親が分別してねと言ってもしなかったのに、最近でも「ママこれはプラごみだったっけ」と言いながらヤクルトの捨て方をですね、知っていますので、地道かもしれませんが効果はあると思いますので引き続きお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p>
会長	<p>他にございませんでしょうか。</p>
委員	<p>あの、小型家電のリサイクルを試しにされてると思いますが、あれがもう少し充実すれば、リサイクル率も上がることは考えられますでしょうか。</p>
事務局	<p>小型家電の回収でございますね。去年の10月から今年の3月いっぱいまでの予定で進めております。各公民館でございますとか本庁舎とか、公共施設14カ所にボックスを置きまして、そこに市民の方に使用済みの小型家電を入れていただくと。それを我々の方で回収しまして、それを認定事業者と言われます特定のルートがございまして、そこに運んでいきますと、そこでは通常の処分、処理でなく貴重な金属が含まれておりますパソコンなんかも、貴重な金とか銀とか銅とか色んなレアメタルと言われるものが入ってる、そういうのを取り出すような特殊な処理をされると。これを狙ってそういう小型家電の回収をさせていただいている。</p> <p>これは今年、環境省の方の実証実験の採択をいただきまして、川西市として実験させていただいております。おかげ様でチラシを全戸に配布して、スタート前に配付しましてやったところ、我々の予想どおりというか、予想以上というんですか、かなり皆さん、家の中で退蔵されていたパソコンとか家電製品、どんどん持ってきていただいております。これ、3月までということで取りあえず一旦は終了させていただきまして、実験の結果をいっぺん整理さしてもらおうと思っております。と申しますのがこれ</p>

やはり経費との見あいというものがあまして、運送費等々処分費がかかる一方で、レアメタルなんか回収できるというためにはどういった収集、回収なんかとか、そういう仕組みをすれば市にとって、経済的なメリットも含めてあるのかなというところを、整理をした上で今後の展開を考えていきたいなというふうに思っております。取りあえずは3月まではやらしていただこうと、その後の展開についてもまた検討していこうと思っております。

今、委員がおっしゃったように、これが軌道にのって皆さん市民の方がどんどんと出していただくようになれば、おっしゃったようなりサイクルの率、高まると思われまます。というのも、これも実際のところ今は小型家電の回収のシステムに出さなければ、燃やさないごみとか大型ごみで出されるわけですけども、非常に不法な回収が取っていつてるというようなことも多ございます。それがきちっと回収ルートに乗るといのも一つの意義あることかなと思いますので、そういうことも含めまして、今後の対応についてもまた検討していきたいなと思っております。

委員

今の聞いて、環境推進協議会じゃなしに、自分の住んでおります、私コミュニティの副会長しておるんですけども、多田東会館から苦情が殺到しております。商品を持ち込んでみな持って帰ってもらってます。そこらはどういう考え、今日昼から政策とこの話しますので、公民館に格上げせいと事務員から話が出てきてるんです。それを聞かしてもらったら、県住なんか全員が多田東会館持ってきてるんです。鼓滝も上の方からも持ってくるわけです。それが全部持ってきて「いえ、これは多田公民館ですよ」って言ったら、また歩いて行こうと思ったら20分ぐらいかかるわけですね。

事務局

ご迷惑をおかけしました。小型家電につきましてはいろいろな方法がありまして、今回やっているように各公民館にボックスを置いて回収させていただく拠点回収の方法もあれば、例えば国崎クリーンセンターの方でピックアップをする方法もあるとか、色んな方法がある中で、我々、実証実験という中で国からお金をいただくからできたという面もあるんですけども、一番今後のやりやすい方向とかを考えながら、拠点回収ということで公民館を中心に今回ボックスを置かしていただいて、公民館であれば我々が公民館の方まで集まった小型家電を取りに行ける。で、分庁舎に集めてそれを業者の方に引き渡すという方法を今やっておるんです。その数が多ければ多いほど市民には利便があるんですけども、回収方法とか色んな面を考えると、今の段階では今回やらしていただいた公民館とパレットかわにし、13カ所か14カ所の地点でやるのが今の段階では一番ベストかなというふうなことで、進めさせていただきました。

今、北会長おっしゃったように、今回は実証実験を3月末までやらせていただいて、検証した上で今後どうするかいうのを考えていきますので、東会館で大変ご迷惑かけたことは反省しながら、今後考えていきたいと思っております。本当にご迷惑をおかけしました。

委員

ちょっといいですか。明峰公民館でやっていただいているんですが、これ十分に周知徹底はまだされていないので、これやっぱ3月で打ち切りって言うんじゃないくて、

これ継続する必要があると思います。いつも小型家電を捨てるかって、買い替えの時に発生しますので、その時に意識がなければ公民館に持ってきませんので。今のところそこまでは公民館もコマーシャルはできていないですよ。だけどとっても大事なことで、持ってきたらもう終わってたっていうようなことは止めていただきたい。余程これが効果があるかないかが検証されるんですけど。やりだしたらもう少し続けていただいて、これについて検証は、回収が悪いから、いいとか悪いとかじゃなくって、まだまだ周知徹底の段階なので、公民館もそんなに力入れてやってませんよ。これどんな形でコマーシャル、あれですか、これの公民館のあれは。

事務局

はい、市民への告知でございますね。この実験が始まる10月1日前の9月中に、一度カラーのチラシを全戸に配布をまずさせていただきまして、同時に広報誌の方にもそういう記事を載せまして、続きまして1月の末にも、もう一度全戸にチラシを配布させていただきました。また市内にも若干ポスターも用意させてもらったところがございますし、各公民館に置いてますボックスのところには、のぼりを立てまして目立つようにしてもらってるところもございます。そういう形でやっておるところでございます。

委員

継続をお願いしたいと思います。打ち切りと言うんじゃないで。13か所ですか。

事務局

14か所です。

委員

14か所ですか。こういうのは継続して定着しますので。公民館の方で苦情が出てるとは聞いてないので、ぜひ引き続きお願いしたいと思います。

会長

他に何かご意見ございませんでしょうか。

委員

今日は交通渋滞に巻き込まれまして遅れてしまいまして、申し訳ございません。

今日、数字を見せていただきましたところ、国崎の方のデータとよく突合する内容の数字がこう表れてきておりました、平成24年度から25年度にかけてごみの排出量が減ってきておるところですが、国崎でも原因が何なのかというところを非常に興味を持って見ておるんですけども、私正直、何が原因なのかまだよく把握できておりません。

色々な活動なりがごみが減ってくる要因の中に入っておると思うんですね。NPOの活動であったり、コミュニティや自治会の活動であったり、はたまたこの啓発活動、先ほどから資料たくさん見せていただきましたけども、こういう市民向けあるいは事業者向けの漫画をたくさん採り入れたような分かりやすいこういう啓発活動が、地道な活動として実を結んできているのかな、色んな要因があると思いますので、これだというのは中々見極めづらいかと思うんですけども、何かこれはよう効いてるかなというようなことを、ご感想でも結構なんですけども思われのことがあるんだったら、披露してもらえたらなと思うんですけども。

事務局

今の質問、来たら困るなというふうな話をしてたんですけども、何が原因でごみが出たのかというのは中々分析しづらいところがありまして、杉岡委員おっしゃってくださったように、色んなものが混ざって下がったんやろというふうなイメージしか私自身持ってなくて、これがためにごみが減量になっていったというふうなことは、ちょっと今のところ私自身分析はできてはいないんです。

ただ24年に比べて25年が下がって、今の速報ですけども25年に比べて26年下がってるというふうなことになってるので、今まで横ばいやったのが下がって下がってという傾向になってるので、これは間違いなく啓発の効果がジワリジワリ出てきたんじゃないかなという、自惚れにもなるんですけども、これというものはないけども、今までの総合的なものが効いてきたん違うかなというふうな思いを持っていますけども、当初会長がおっしゃったように、まだ目標の100gには達成していないので更なることが、また新たなことを考えていかないといけないのかなというふうにはあるものの、ジワリジワリきたんかなというイメージでございます。

委員

今おっしゃったように、新聞を取る若者が少なくなったのがもう一つの要因なんですけども、もう一つはやっぱりイオンとか大型ショッピングを含めて、いわゆる袋を、最近家庭から持って行って袋に入れるというふうな、あれも大分効果は出てるんじゃないかなと。毎日のことですから結構バカになりませんから。だからごみになる要因って家庭で考えた商品を買ったときですから、毎日の要因がそういうことで、新聞が減る等々は私たちの日常で見たときに考えられるのかなと。それ以外には、こういういわゆる水切りですか、これね、こういうような、これも十分効いているんじゃないかなと思って。こういうような細かい、そういったものの積み重ねだと思いますけれども、よくわかりません、それは。おっしゃるように新聞紙等については自治会等で古紙回収やってますから、やっぱり減ってきてるのはそういう要因だと思いますけれども、連帯感に立ってこれがついていうのが中々分かりませんが、いくつかの要因があるかなと。そのだから色々推進してこられたことが総合的に効果を出しているんじゃないかなとこう思います。

だから100gっていうのが何を根拠にして100gなのちょっと分からないですけど、それやったらこう少しずつ減っていったっていうのはそういう効果の表れではと思いますけども。これ以上に何を私たちが、市民の皆さんが努力をすれば減らすことができるかって、何か事務局の方でお考えがあれば披露してください。

事務局

今も皆さん、おっしゃっていただいたとおり、これがというところの決め手は分からないという前提なんですけども、今後どうするかという点ですね。

やはり今我々がやってます啓発というのが、ひとつ路線として市民の方にご支持いただいているのかなというのが、先ほど部長が申しました啓発活動がジワリと効いているのかなというところですので、まずひとつは今の路線は続けていきたいなというふうに思っております。また、やはり先ほど申しましたように一番多いのは、何と言っても比率的に多いのは燃やすごみでございます。水切りをすればなんぼかかなり減るといっても、先ほどお示しさせていただいた、チラシなんかで市民にも啓発させ

ていただいております。これに対しても引き続き啓発活動は頑張っていきたいなと思っています。

それに加えて、次でまたお示ししようと思っておったんですけども、ご提言で4つ目にいただいておりますごみ袋ですが、色をどうするかという話。今でしたら透明じゃない黒い袋でも回収をしておるんですけども、その中に組成分析をしてみればかなり資源物が入っていると、燃やすごみ以外のものが入っているというのが、調査で分かっておりますので、そこらへんについて何か対策を取っていったら、より一層減量の効果が出るのではないかなというようなことは思っております。またそれについては、後ほど説明させていただきたいと思っております。

委員

減量の中で、今話の中で紙布というのは増えるんですね。それで今若者も、新聞屋さんには嘆いてます。もう配達量がだんだん減ってくるということで。

それでひとつうちの自治会さんの例をとると、業者に月一回第二月曜日ということで、それで紙布の市の回収の折には悪いですけども、その日の当番の方に自宅へ持って帰ってうちの自治会の折に出してくれというようなこと、徹底してるんですよ。

それと僕らでも近くでイズミヤさんまで歩いて行くと、二日に一回ぐらいトラックが来ていっぱい積んで帰るんですよ。あれはやっぱりチケットに換えますので、割引券に。だからそういうような中で、何故このごみがね、紙布が増えてるとというのがどういうところに置いているのか、各新聞販売店に聞くと、部数がだんだん減ってきてるそうです。家庭で新聞を取らないというところがね。だからうちも子どもに聞くと「そんなん、パソコンありや大丈夫。新聞紙に何で高い3千なんぼも払わないかんねや」というような時代になってきてるのに、紙布は増えてる原因がね、僕はこれをちょっと徹底されたら、かなり落ってくるんじゃないかと思うんですけどね。

それにうちのやっぱり自治会の150軒ぐらいの自治会ですけども、環境やってる関係で回収日に行って業者さんと話すんですけども、業者さんもうちに対して言うのは、自治会の収入が減ってきておるんです。で、業者さん来たら紙布は変わらんんですけど、雑誌、あの新聞に入ってる、それは悪いなって、うちスーパーそこやからみんな持って行ってやっぱり割引券に換えるから、やろうという判断しとるんですけども。このデータ見ると25年度より26年度が増えてるとというのがね。そやからこれはちょっと一回、もう一回分析なんかしてもらって増えてる要素を、これ何とかうまくやれば現状かなり落ってくるんじゃないかと思うんですけど。

会長

紙でも新聞紙だったり、雑誌だったり色んなものがあつたりで、それと後、布というのはたぶん、今どれぐらい増えてるかというのは、新聞は確かに減ってると思うんですが、何か他に新聞以外の中で増えているというのは分かりますか。

事務局

紙布の内訳でどうかというお話でございますね。

ちょっとそこまで深く見ておらないので、今後そこらへんも必要かなというふうに思います。おっしゃるように新聞紙は減っているという一般的な傾向、恐らく川西もそうだというふうに思いますので、その他どうなると、紙布の内の状況というものを

ちょっと掴む必要もあるなというものを、今のご発言で感じております。

私の方も資料のご説明の方がちょっと不十分というか、下手だったというので、もう一度改めてご説明させていただきますと、資料の3と4ですね、3の裏と4の3枚目見ていただきますと、再生資源の集団回収は減ってますと。24年から25年は減ってますと。これ大きくは紙以外のものも入ってるんですけども、比率的に多いのは紙でございます。ここでは減っておって、資料4の方の紙布は前年比に比べますと103増えてますというのは、集団回収を除いた家庭から出る部分の数字でございます。トータルしますと約横ばいというんですか、状況でございます。ところが、集団回収で出る分が減ってそれが家庭ごみの方に回っているのかなというような推測を立てているところでございます。

当然先ほどおっしゃったように、新聞紙がどうだ、他の紙はどうだ、布はどうだという部分もあると思いますので、そういうことは今後気を付けて見ていきたいということでございます。

事務局

行政回収の古紙類の24年度と25年度の内訳の比較がございます。ちなみに24年、25年比較しまして、段ボールが増えておりますが雑誌類につきましては減少しております。新聞につきましては若干増加しているということで、雑誌類については減少、段ボール新聞については24年度と比べて25年度の方がちょっと増加しているような状況でございます。

会長

段ボールが多いんですね。

事務局

はい。

委員

私も買い物とかがどうしても、今インターネットで割と買うもので、やっぱりダンボールごみというのは増えてまして、雑誌とかは今スマートフォンで見れますので減ってます。なのでそういったダンボールごみというのは確かに自分でもよく出してるなという実感はありますので、そこが増えているのかなと。

あと、すいません。人口なんですけどもごみ減ってるっていうことになってはいますが、人口の方は。川西の、どうなんでしょうか。横ばいなのか増えているのか減っているのかぐらいは。

事務局

人口はほぼ横ばいでございます。

会長

1人当たりしてますから、人口が減れば逆に増える感じになりますね。

委員

新聞の方なんですけど、新聞自体、今年、去年が急に減りだしたということでもないと思うんですよね。結構スマートフォンができてからは、逆にずっとここ何年かずっと減り続けて、ただし逆に言いましたら、今度新聞を取る人も減ってきているのも事実だと思います。

ちょっと私これ見て気になるのがペットボトルって、10%減ってるんですよね。何か全然よく分からないですが、たぶん皆さんご苦労されて、色んなことされて、トータルで言いましたら大体 1.2%ぐらい今減っている。事情が分からない。中々分かるものじゃないと思うんですが、川西市の消費動向自体はどうなっているんですかね。

もちろんたくさん買われたら、たくさんごみは出てくるということは考えられると思うんですけども、そういった消費っていうのが、ま、言ったら私どもも、お仕事もずっと見てるような状態ではございませんので、こういった部分っていうのはどこ産色んなところ、だからやはり商売人厳しい、厳しいって特に地方って言ったら失礼なんかな、川西の方をおっしゃっていますけれども、その辺のことが逆に一番大きいとしたら、放っておけというような解釈もできるんですけど、ただ、こういったことに関しましては、やっぱり先ほど横谷委員がおっしゃってましたけども、小型家電の現認にしても、継続してやっていくっていうのが絶対一番大事だと思いますので、そのへんのことよろしくお願ひしたいと思います。できたらそう言った消費動向という部分も一考資料としてあるんでしたら、それ入れられた方がより分かりやすいんじゃないかなというような感じがします。

事務局

ありがとうございます。ペットボトルのお話が出ましたので、我々ちょっとこれから取り組もうとしていることをご紹介させてもらおうと思っています。

先ほどご紹介させてもらった3月の「キッズりぼん」のイベントでございますけども、こちらの方でマイカップ、自分でお茶を入れたりするカップを啓発で配ろうというような考えもございますし、また先ほどご紹介させてもらいました「子どもの学習会」の方でも、ペットボトルよりも水筒とかマイボトルの方がいいよというような説明もして、子どもたちに聞いてもらったりしてます。そういうことも今後引き続きやっていきたいと思っています。

それと先ほど紙の話も出まして、今後の取り組みの中では新年度からですが、雑がみといわれる紙ですね、お菓子の箱ですとかノート、使ったノートとか雑がみといわれる紙の種類ございまして、今まであまりそれをリサイクルしましょうとか、回収しましょうということが少なかったのかなと思ひまして、恐らく燃やすごみにかなり入ってたと思うんです。それを燃やすごみから分けて、雑がみは雑がみで紙ごみの日に出してくださいというようなキャンペーンを始めていこうと、そのためにはただ言ってるだけでしたら非常に難しいので、雑がみばかりを入れる紙袋なんかを簡単に工夫して市民の方にお配りして、「ここに雑がみを入れてくださいね、紙の日に出してくださいね」というようなそういうことも訴ていこうかなと思っていますので、そういうところで紙の回収、資源物の回収というところに取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

委員

ペットボトルについてなんですけども、私思うに店舗回収に持ってくる量が増えてるんじゃないかなっていうふうに思うんで、スーパーさんとか、そういうところって回収量とかの情報交換なんかもあってもいいんじゃないかとは思ひます。店舗回収は

	ここにカウントされないんでしたよね、確か。
事務局	はい、入らないですね。
委員	そしたら、そっちにみなさんが持ってくるようになった可能性もあるかなと思います。だからごみの量として増えてるのか減っているのか、その辺どう市のテリトリーと業者さんのテリトリーとはまた違うというか、全体像というのはまたちょっとは変わるのかなとは思ったりしてます。
副会長	そのことなのですが、駅などでごみ箱がございませぬ。そこにはかなりのペットボトルが捨てられているのではないかと思う理由がございませぬ。川西でやってらっしゃるかどうかわからないんですけども、キャップを別にごみ箱の横に分けて入れる駅がございまして、そうすると一ヶ月で本当にすごいキャップの量が集まる、というのは、そのキャップの量については情報をちゃんと出されているんでせぬ。これだけ回収したのでワクチン何人分に換えたとかいうことがあると思うので何個集まったかが出ているんですけど、少なくともキャップの分だけペットボトルも出てると思うと、あそこにはかなり出す方も多いと思うんですけど、あの分というのもカウントはされてないんでせぬか。
事務局	駅のごみ箱とか自販機の横に置いてますごみ箱、あれはカウントに入ってませぬ。
副会長	でせぬ。
事務局	業者の方が回収しているものでございませぬ。
副会長	だからおっしゃられたように、どこに出すかということが原因でここの調べている対象からは減っている、ということはあるのかなと思います。もちろん、川西市全体で出てくるごみの量が減るっていうのがたぶん一番望ましいと思うんですけど、なかなかこれは量ることが難しいと思います。私もペットボトルがすごく減っているのがすごく気になっていたんです。そしたら今のお話ですと、そうだな、駅もあるなと思いましたので、それですみませぬ、発言させていただいたところでございませぬ。
委員	スーパーなんかで聞きますと、ペットボトルの売れは悪いそうです。今、大きいやつが、大きいのを買いになって帰って、こういう小さいやつはやっぱり売れが悪いそうです。なんで大きいの言って聞くと、子どもが学校に持って行くわけですね。水筒を。
会長	入れ替えるんでせぬ。
委員	そうすると大きいやつを買って、お母さんが仕事をしているから沸かすんじやなし

	<p>に、それを子どもに持たせて入れて学校に行かす。だからこれの方が割高になるわけです。そういうようなことをスーパーは、自分のところの売り上げ分析に必死なんです。</p> <p>その売れない原因は、やっぱりこれはスーパーさんスーパーさんでやっぱり必死になってやりますからね。だから大きいものは増えてくる。小さいのは減っている。</p>
副会長	水筒は浸透しているってことですか。
委員	多田東小学校では学校でお昼ごはん、お茶は出ませんので、水筒持って学校へ行きますから。
委員	うちも多田東なのでそうなんですけど、一番本当はごみ出さないのは大きいペットボトルを買うのではなくって、沸かしてするのがもちろん皆さん分かってると思うんですけども、たぶん皆さんお忙しいから。
副会長	沸かさなくても。
委員	水出しとかありますよね。
副会長	ありますよね。水にお茶の袋だけ入れといて冷蔵庫入れといたら。
委員	その時間もない。
会長	すみません。そうしましたら事務局。
事務局	<p>ペットボトルの量が減ってることにつきましては、私どもの方でもどういう理由なのかということで内部でもちょっと話はしておりまして、実際 10%近く減量になっているにもかかわらず、収集としてそんなに実感的に減っているような感じがないんです、実は。その中でちょっと考えられるのが、これは恐らく、今後全国的な動向も見た上でのことなんでしょうけども、容器包装とペットの業界につきましてはかなり減量化、ボトル自体の減量化に取り組まれてるというのもあると思うんです。特に今お手元にあるような、これ旧のボトルなんで結構固いボトルなんですけども、ちょっと重量もあります。</p> <p>最近でしたらよくコカコーラなんか、かなり飲んだ後はペランペランのようなペットが増えてるのも若干あるのかな、というようなことでは感じているんですけども、これは推測の話なんで、特に今この減少していますのが、川西だけの状況となっているのか、減少になっているのか、全国的、他市も含めてこのような状況になるのかも、また一度資料を集めまして、またその辺の分析なんかもしてみたいと思います。以上です。</p>

副会長

あの、大したことではございませんが、今見せていただきまして、色々な工夫や、啓発のツール、とてもいいなと思った点が二つございます。

一点目は市民目線でなるべく読んでいただけるようにという工夫が、様々に凝らされている点でございます。二点目はクリーンレンジャーもそうなのですが、職員さんが協力というか、さらに一步進んで、たぶんご自分で工夫をされて啓発に取り組んでらっしゃるところです。その二点がとても川西市さんはいいなというふうに思いました。

それから学習会に関してなんですけども、先ほど非常に興味を持たれるようになりましたという轉保委員のお話もありましたが、子どもに教育すると今度は子どもが家に帰って親を教育するという念があるので、とても大切なことかなというふうに思いました。

それで最後なんですけど、課題としては、例えば親子見学会に行ったとか、キッズりぼんに参加した方という、つまり興味のある方という方には非常に届いていくんですけども、興味がない市民にどういうふうに啓発していくかというのが、今後の課題だろうなというふうに思いました。以上です。

会長

そうしましたら時間もあれなんで、最初の資料の一番後ろに付いてます、この審議会で審議しましたいわゆる施策について、その分についてちょっと説明させていただきたいんです。

施策のところは、皆さんの資料の一番最後に付いております、1が「啓発ツールの作成・活用」、2が「啓発促進システムの構築」、3が「大型ごみの有料化」、4が「ごみ袋の色指定の導入」と、この4つの、先ほど言った100gの目標に対してですね、何とか厳しいという状況はわかりますけど、それらについて市の方でお願いしますというようなことをいった内容ですので、その部分がどのように市の方で進めておられるか、答申書のまず一番上から「検討施策 1：啓発ツールの作成・活用」にございます啓発ブックというのが1ページ目の2段目のツールのところに啓発ブックとありますが、それについて市の方で説明をお願いします。

事務局

それでは、まず検討施策1の啓発ツール作成・活用というご提言に対して我々がどう取り組んでいるかについて、ご説明をさせていただきます。

啓発ツール作成・活用ということで、ご提言の中では、具体的な啓発ブックの新たな作成と配布が有効ですということも挙げていただいております。で、それにおきまして我々どうしていこうかなと検討しておりまして、実は国崎の組合で1市3町、川西を始め猪名川町、豊能町、能勢町がまとまっておりますので、そこで一つ啓発ブックを作るというのはどうかというようなお話に、まとまりかかっているところがございます。27年度、新年度でできたらそういうのを発行したいなということで、中身も先ほど委員の方がおっしゃっていました、市民目線ということを大事にして、「こうすれば減量ができるよ。分別ができるよ。」ということを分かりやすくするようなもの、これを作っていきたいなと。できましたら全戸に配布をしていきたいなと。それを見ていただいて、新たに減量啓発に取り組んでいただける家庭を増やしていきたいなと

というようなことを、1市3町と国崎の組合さんの方とで話をしているところでございます。これも27年度中に何とか形にしていきたいなというふうに思っております。

またこの施策の提言の中で、国崎クリーンセンターの見学会へ市民を積極的に連れて行ってあげたらどうかというような内容も入ってまして、先ほどもご説明させていただいたバス見学会ですね、バスでの見学会も新年度も引き続き予定をしております。

こういうツールにつきましては、以上のような状況でございます。続いて2以下もよろしいですか。

会長

はい、どうぞ。いいですよ。

事務局

検討施策の2で、啓発の促進システムの構築して行って、市からの情報を地域の中に広く伝えていこう、というようなシステムを構築ということをご提言いただきました。

これにつきましても、今現在、地域団体さんの方に話を持って行くべく、準備をしているところでございます。どういうシステムをするかということにつきましては、まだフリーハンドで、これから地域の方と話をしていこうかと思っております。

また、いつ頃にどれぐらいの規模でできるかということは、最初から全市規模でというのは非常に難しいのかな、できたら最初はモデル地区で、一つでも二つでも取り組んでいただけたところがあれば、そこから広げていければなというふうな気持ちで、これから地域の団体さんと話を進めていこうということで思って、準備をしているところでございます。それで、これもちょっとまだ形にはなっておりませんが、進めていっているところでございます。

次に検討施策の3で、大型ごみの有料化ということですね。これにつきましては、昨年の秋の市長選挙の公約にも、大型ごみの有料化というのは挙げられておまして、今年27年度の実施計画におきましても検討していくというような、市の中での位置付けをしているところでございます。27年度に大型ごみを有料化していくには、どういったスタイル、どういった方法で市民にどういふふうに説明していけばいいのかということを検討させていただいて、これにつきましては、実際する場合におきましては議会におきます議論も経まして、進めていけたらというふうに思っております。

検討施策4につきましては、ごみ袋の色指定の導入という件に関しましては、指定制という制度としてするかどうかという前に、まずは市民の方々に、透明・半透明の袋を使ってくださいませんか、使ってくださいねというようお願いからまず入っていこうかなということで、これも呼びかけをしていこうというふうに思っています。

先ほども若干触れましたけども、組成分析の中で、燃やすごみの中で4分の1ぐらいが、紙ごみが入っているというような分析の結果が我々の方にあります。黒い袋でしたら、燃やすごみの中に色んなものを入れても分からないけども、透明・半透明にすればそういうごみも減っていくのかなというふうに思いますので、これも先ほど申しました「ごみの学習会」「出前講座」等通しまして、できるだけ透明・半透明の袋にしてくださいということをお願いしていきたいと思っております。

なお、毎年我が方でマイバックキャンペーンというのをやっております、スーパ

一の店頭などに出向きまして、「マイバックを使ってくださいね」というようなキャンペーンをやっておるんですけども、その時にもちょっとお話を聞かせてもらって、アンケートなんかも取らせてもらって、市民の方の透明袋・半透明の袋に対する反応を聞いております。概ねですけども透明・半透明袋に対する抵抗感はないようであるというような感触を我々としては持っております。ですので、お礼をしていけば大分の方がそれに話を聞いていただいて、実行していただけるのかなというふうに思っております。今現在の状況につきましてはこういうところでございます。

以上でございます。

会長

はい。ありがとうございました。

この審議会では、いわゆるケース・スタディと言いますか、100gの減量という形で、どう計算しても100g達するには大型ごみの有料化と、これに十数g、20gへの期待をしていますので、これがないとたぶん100gには到達しないかと、これは私の個人的な感想ですが。大型ごみも、そういう形で説得してやっていただきたいのと、今までの議論の中でもありますように、前回の審議会の中で、ケース・スタディの中で、マイバック持参とか、あるいは販売店の店頭回収とか、詰め替え品の利用促進とかそういうものを期待して、先ほどから今までの議論の中でも店頭で詰め替え用品とか、色んな商品の店頭回収というようなものも、数gずつですけど期待はしていますので、啓蒙の中で、家庭の方も当然ですけどそういう面もお願いしたいということで、今4つの施策についてご説明いただきましたけど、何か委員の方でご質問なり、ご意見なりございましたら。

委員

ちょっと考え方を尋ねときたいと思うんですけどね。検討施策第4番のごみ袋の色指定の導入の件で、今確か環境部で、自治会の環境部で年何回かの一斉清掃してますよね。そういうのを含めて、公園の清掃等について若干市の方に要請をすればごみ袋をいただけますよね。そのごみ袋について従来は透明・半透明じゃなかったと思いますが、そのごみ袋について、一度透明にするか半透明かにしていただいて、その反響を見ると。それ、今どうなっています？今まではそうじゃなかったと思いますけど。

事務局

今、委員のお話ありましたように、年に2回クリーンアップ大作戦の際に、ごみ袋をお配りさせていただいております。これ、数年前から透明の袋に変更させていただいております。

委員

あっ、透明になっていますか。わかりました。その反響で随分違ってくると思いますので。じゃ引き続きそれはお願いしたいと思います。

会長

透明の袋にすることによって、燃やすごみの中の水気の状態とか、あるいは食べ残しのとか、そういうものも色んなものが混ざっていると、資源ごみが混ざっていると、そういうもの若干ですね、減らしていただけるのではないかと期待もあろうかと思うんです。何か他にご意見。

あの、すみません。年に1回しかないので一人ずつ、すみませんけどご意見なり何か。

委員

1点目の啓発ツールの作成・活用というところでご説明があったんですけど、1市3町でごみの排出量を抑制するとか、分別を徹底するその手法をどういうふうにしようとかいう、ツールとしての啓発ブックを作成するというところでご紹介していただきましたけども、実際それを担当している者ですので、少し説明を加えさせていただきたいと思うんですけども、平成26年5月に、去年の5月に国崎クリーンセンターの方で施設部会というものを立ち上げてまして、1市3町のこういうごみの担当の方たちにお集まりいただきまして、それぞれ1市3町で行われております啓発の内容ですとか、それから国崎クリーンセンターのゆめほたる、啓発の指定管理者のそれぞれが行なっております啓発事業ですとか、切り口の違う啓発、ごみに関しては一緒なんですけども、を行っております。

そういったお互いが持ち合わせておりますノウハウを一度出し合って、タッグを組んで一つの目的のために1市3町の住民の方が分かりやすいパンフレットを作れないだろうか、というふうなご提案を川西市さんの方からお出しいただきまして、私どもの方もそれはその通りだというふうに共感いたしましたので、その事業を今現在進めておるところでございます。

実際具体的に、どんなものを作ろうかというところなんですけども、形から言いますと大体A4サイズでフルカラーの8ページものぐらいを予定しております。それに掛かります費用、ザクツとしたお金で約200万ぐらいかかるというふうに見込んでおります。12万部程度を作成しようと思っております、これでいきますと1市3町の住民の方全戸にお配りすることができるというふうな部数になってございます。想定しておりますその中身なんですけども、これはごみ減量化を推進するため各家庭でできるだけ簡単に、しかも継続してやっていけるような減量のマニュアル、そういったものを先ほどのマンガでありますように、分かりやすい取っ付きやすい内容にしていきたいなど。

それと分別に関しまして1市3町で、若干細かいところでは差もございまして、そういう誤差みたいなところの部分は除きまして、共通して啓発できるような内容、「分別の仕方が分かりにくいな」というご高齢者の方のご意見だったりですとか、単身赴任の方ですとか、大学生とかワンルームにお住まいの方ですとか、そういう方の分別について興味がない様な方にも「おや、何だろうこれは」と思わせるような工夫を入れた、そういうガイドブックを作りたいなというふうに思っております。で、先ほど申しました概算の費用を、組合議会に予算の内容をご審議賜りますので、それで可決していただければ予算が付いたということになりますので、そういう予算措置を現に行っております。1市3町でやろうとしていることが、これで一つ、現実のものになっていこうとしている状況でございます。これからも川西市さんと色んなところでご相談させてもらいながら、やっていければなというふうに思っております。ちょっとご説明をさせていただきました。

会長	<p>はい、すみません。ありがとうございました。</p> <p>次のところに説明がある、下から4行目ぐらいにある「センターで使用しているDVDについては貸し出しについては」にあります。</p>
委員	<p>それ以外にも、こういう新しい取り組みを実際に始めておりますけれども、ご紹介させていただきました。</p>
会長	<p>はい、わかりました。</p>
委員	<p>私も思いますのは、クリーンセンター、今年は山下さんにご無理言いましたけど、やっぱり見学して講習を受けるっていう、うちも環境部会だけですけど行ってるんですよ、毎年。そうすると、帰ってきて次の部会開いたらみんなもう反省してるんです。一番問題なりますのは、ペットボトル。何であれが外されない。あそこで人が入って外している訳ですからね、あんな経費を、家で外せばそれこそしないでもいいんじゃないかということを部会員さんは次の部会では認識するんです。ただこれが自治会へ帰ってやるとなると難しいって言うんですね、やっぱり。</p> <p>自治会で全員集まって、自治会の役員会で話したかて、自治会の会員さんがいてはるから、予算がある所にいくと今年も来季も続けていきたいなと思ってますけど、このカウントに入ってませんけど清和台のコミュニティは阪急バスを借りてきて、午前午後で大型バスで借りてはるんですよね、クリーンセンターへ。それを聞くとやっぱりあれぐらいやりはっても住民には徹底しないって環境の協議会の方には言いはるんやけども、今度帰ると、それだけの予算のあるコミュニティと、無いコミュニティとでは、まあこちらは何とか無料のマイクロバスで行こうとしている。そうすると徹底しようと思えばやっぱりそういうぐらいの清和台の中で大型バスで送り迎えして、午前午後でそこで説明が受けられる範囲の人数を送り込んでいくっていうのを毎年やってはりますけども、あそこまでやれば徹底できるんじゃないかな。一般住民で見学者募集していきますから、だからこれはやっぱり僕は一番色々見るけども、クリーンセンターへ行って見学して今年も講習してもらいましたけど、それで講習してもらおうとね、いっても部会員は帰ってきたら「あれはよかった。ペットボトルは何とかせないかん。」とかね。あそこだけですかね、人が入ってめくってるのは。</p> <p>これは徹底して言わなアカンって言って歓迎してますけど、やっぱり見学会というのは僕は非常にいいんじゃないかなと。あれ、春先ですか、小学校が行きますね、4月か5月に。</p>
委員	<p>国崎の見学ですか。春が多いですね、5月ぐらいが一番多いですね。</p>
委員	<p>一般の見学というのは、4月5月はダメやっていうて、6月から。小学生が行くんですよ。だから一番いいのは、お母さんと一緒に行きや一番いいなとは思ってるんですけど。まっ、今度は学校の経費の問題もあると思うんですけど。</p>

委員

小学4年生、この1市3町の全小学生が見学に来ていただいております。そこでですね、私ども、絵はがきを作りまして、家族で今日見てきたことを一度話してみてください。その時にどんな話になりましたか、感想みたいなものがあつたら市に送ってくださいということで、家族で話し合ってもらうためのきっかけづくりの絵はがきをお配りしています。それを切手代はかかったら気の毒ですので、小学校の方に先生にお渡しください。学校から集団回収で国崎の方へ返ってくるようなルートを作っております。そうしますと結構回収率が上がってきております。

どこのご家庭でも国崎でやってること「そんなことしてるの」とかですね、自分の家から出てくるごみ、出すごみは1個だけれども、国崎に行くとこんなにすごい量のごみピットに入ってるというような感想を送っていただきます。そういう感想をいただくだけで非常にありがたいなど。少しそれでそれぞれのご家庭の意識が高まればなど、そんなことを思っています。

委員

よろしいですか。これ全然違う発想ですけどね、このペットボトル一つを家庭に持ち帰ると、これ外す、これは別なところに入れる、そして水洗いをする。とってもこれ手間暇かかる。もう年配者の人嫌がってます。だからもう家に持ち帰らないということが多いし、そういうものを買わないのも多いんだけど、私から言えば、こんなもの開発しているペットボトルの業者と発注している大手企業が、ここへ直接印刷するようなものを将来考えないと、こんなことを議題に、こんなことを言わせているのは私、如何なものかと。アルミ缶とかスチール缶はそのまま印刷してますし、ペットボトルだけ、これだけじゃない、今かけてどれくらいコスト、コストばかりかけてどれくらい回収あれになってんのかね。これ行政だけが悩む問題じゃなくて、いっぺんこういったテーマについては、そういった法定業者にそういったことができないか、いうことについては、どっか全国的な、会長、全国的なあれがあつたら一度、将来的なテーマで言うてみてください、これ。これ、できますよ、こんなの。それだったらコストが上がるかどうかともかく、こんなことで水洗いして、水洗って、水洗って金かかるわけだから。こんな安いものを水洗いしなあかん、外さなあかん、これ取って別のところにごみをとって、そんな手間暇かけて、一生懸命推進するっていうのは、今の時代の中では少し将来的には考え直さなきゃ。ペットボトルは。それはちょっと行政の手間じゃなくて、大手のこういったことをやっていることやっていただきたいと思えます。言うておきます。できると思えます。

委員

今は業者は、もの凄くこれぐらいにしていますね。

会長

小さくしていますね。

委員

これ小さくして、ここから外してくださいってメーカーは考えてきます。

会長

色が何か作用するね。色が関係しますね。

副会長

ペットボトル自体に印刷するのは、たぶんリサイクルの関係の問題があると思います。色を透明にしたのも、前は緑とかそういうのだったんですけども、この素材自体に中を保全する、ものを入れることによって透明にしたという経緯があると思いますので、ラベルをやめてボトル自体に印刷ということよりも、方向性としてはこのペットボトルというものの自体のあり方ですよ、ペットボトルが必要かどうかということだと思います。この前、別の大学の先生にお聞きしたんですけど、ゼミで一日に4本かな。水飲んでるって子がいたので「お前それ一年間に」すいません、ちょっと正確な数字は今計算しないと分からないですが、「お前、20万円払ってるぞ」って言ったら「ひえー」って驚いたって。だからそういうことで啓発してもいいのかなと思います。ペットボトルの水はガソリンより高いですからね。

だからそうやって、ペットボトルの利用そのものを考えさせる方がいいと思います。メーカーがやってらっしゃることは、容器を薄くするでありますとか、それからいろはすなんかは、ラベル自体はシュポッと取れるようになってますよね、ノリ付けしてなくて。でもあれでエコだって言っちゃいかんとは思います。だから、これ自体に印刷するって方法よりは、別の方法の方が。

委員

賛成です。それでというものがあれば。今の現状のペットボトルのあり方で市民の皆さんにこれだけ手間暇かけさせている発想そのものが、これはもう、大いに考え直さなきゃいけない、ペットボトルのあり方そのものが。だから、大いに賛成です。それも含めて色んなものが開発されれば変わってくると思いますので、大いに賛成です。そういうようなテーマで議論をされてるなら、現実になれば嬉しいと思うし、もっともっと行政からもそういうような話をしていただければと思います。

会長

そうしましたらすみません。本当に年1回しかこの会議ないので、ご出席委員さんで、ご意見、感想でも結構です。

委員

市で取り組まれている、色々な対策というかこの啓発なんですけど、『キッズリ・ぼ・ん』とか、うちにも小学校6年生の娘がいますので国崎の処理センターにももちろん4年生の時に行きましたし、『キッズリ・ぼ・ん』を読んで、とても分別ということに対してすごく啓発されていると思っております。

今日この資料をまた改めて見させていただいて、とても市の事務局の方が外に出ていって、本当に色んなイベントとかも併せてされてとてもいいなって思います。それがごみの減量につながっていったらいいなって思います。

それと私が常々感じていることは、実際ごみを収集に来られているパッカー車に乗っておられる職員の方々なんですけど、すごく感じがいいんです。ちょっと皆さんがごみをパッカー車が来ているので「アーッ」っとか言って持って走って行かれる方とかたくさんいるんですけど、私もそうなんですけど、それでもちゃんと待ってくださったり、ネコやカラスとかに荒らされてるごみとかも、本当に拾ってすくってパッカー車の方に入れていただいたり、「ありがとうございます」とか私たちが言いますと、本当に気持ちよく「いいですよ」とか、本当に直接のコミュニケーション、そういう

のがちゃんとしていただいているので、私たちもごみを分別しようとか、本当にキレイにちゃんにごみのステーションをキレイにしておこうとか本当に思うんです。ですから市の方で大分頑張っておられるなあってというのが市民、一人の市民なんですけど思うので、本当にこれからもそれは継続していただきたいなと思います。

イベントも大事なんですけど、日々のそういう市民とのコミュニケーションといいですか、そういうのも大切にしていきたいなと思います。以上です。

会長 ありがとうございます。

委員 今度ごみ袋の色指定ですが、今事務局の方まずは呼びかけからということをおっしゃってたと思うんですが、その一番大事なその呼びかけの方法だと思うんです。いうのが、ある一部の方々だけに呼びかけても、それはきっと呼びかけではないと思うんです。ということになれば、やはりこの会議の中で色指定になってないのが川西市だけでしたっけ、周りでは。ですよ、確か。記憶では。

事務局 それに近いところがあると思います。

委員 近いですよ。はい。ということであれば、呼びかけていうのは、非常に「あーる」も大分変わって、一番最後のプラスチックの抱えている部分、非常に見やすくなっていると思うんですが、そういった部分で大きく取り上げてやるほうが少しでも呼びかけてっていう、呼びかけですから強制力はないんですが、キッズりぼんも同じ時期に入るとかいうような形で、どんどん何か市民が「あっ、そうしないといけないね」っていうふうに持っていけるような呼びかけ方法っていうのは、やっぱり本当に考えないといけないんじゃないかなと思います。

会長 はい。ありがとうございます。

事務局 佐藤委員のお言葉に嬉しくなりました、私、今年、収集の作業員と一人ずつ面談させていただいて、私が言ったことは、「ごみ収集というイメージをよくしたいねん」というふうなことで「そのためにはどうしたらいいと思う？」って一人一人と話して、「やっぱり丁寧な収集やで」とか、市民が出てきたときに丁寧にきちんとあいさつすること。それが我々の、どうしてもごみといたらイメージが悪いので、ちょっとでもイメージをよくしてパッカー車に誇りを持って乗ろうという気持ちにさせたい、したいというふうなことで、一人一人面談して、まず市民とお会いしたらきちんと挨拶すること、ごみステーションではできるだけ丁寧な収集をすること、それが我々の信頼を得るし、我々の言ったことも啓発にもつながってくれるんだらうというふうなことを、一人一人と話をしまして、何とかイメージを良くしたい、自分が格好良くなりたいということもあるんですけども、ごみ収集というイメージを良くしたいということはずっと言い続けて、そういう声を聞けたというのが凄く嬉しくなって、ちょっと手を挙げてしまいました。

	<p>今日も作業長、班長会議があるんですけども、そんな声があったということも、また是非言い続けようと思っています。どうもありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>私も佐藤委員がおっしゃったように、本当に家の前で「あーっ」って言ってたような状態になったときに、何回か「持っていきますよ」と言っていただいたことがあって、ビックリしました。色んなところに、伊丹とか尼崎とかにも住んでたんですけど、そんなん大概パーッと行っちゃうんで、持って行ってくださったりとかして、こんなんいいのかなと思いつながら家の前でお渡ししたりしたということがあったので、凄くいい人材が揃っているのか、教育がいいのか有難いことだなと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>啓発促進なんですけど、市でも大きなイベントが。例えば、川西まつりとか源氏まつりとか花火大会とかあるんですけど、そういう時にもっとごみのことを、ごみ減量というのを混み入れていくというのは、これ、市の共催でないといけないっていうこと、全部共催なんですかね。ちょっとハッキリわからないんですけど。</p>
<p>事務局</p>	<p>そういうところには積極的に行きたいなというふうには思っています。できる限りにおいては。</p> <p>去年も川西まつりのときに、ひとつブースをお借りしまして、先ほどおっしゃってました小型家電の回収のPRと、廃食用油の回収ということでやらせてもらったところです。そのときもやりましたし、今後もイベントと係わりを持ちながらできる限りはしていきたいと思えます。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば使い捨ての、中々難しいことではあると思うんですけど、イベントで例えば使い捨てをできるだけ止めるというか、食器とかお箸とかコップとか。そういうふうに市民の人が協力できるような、何かちょっとイベントで目を引くような、何かそんなふうなことがあってもいいのかなとは思いますが。何かせつかくのおまつりで大量にごみが出るというふうにも聞いていますので、何かそれをちょっとでも減らすような工夫を考えていけたらなとは思いますが、これって言ったら今は出ないんですけど。やっぱり廃油の回収とかもちろん大事とは思いますが、やっぱり使い捨てというのが一番大きいかなって思うので、何とかできないかなって思っています。ちょっと答えが出ないんですけど。また大きなイベントでやることで、多くの人に知ってもらえるんじゃないかなと思うのでよろしくをお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>これはごみの減量とは関係ないんですけど、地域で今一番話題になっているのは、高齢者が増えてごみの収集をできなく、ごみステーションまで持って行けなくなる方が増えつつあるので、この直接減量のテーマではないので、今後このテーマというのは高齢化に向かっていますので、どうあるべきかっていうのはこれからの全体の、環境部全体の問題だと思うので、これは今日の審議会とは直接関係ないと思えますけど、地域で色々検討してみます。またいいアイデアがあったらぜひ教えていただきたいと思えます。</p>

副会長	<p>後は雑がみのことがさっきありましたけども、雑がみは凄く効果があると思います。重いですし、それから今までの燃えるごみのところはかなり入っているので、だからその袋を入れることによって啓発というのはとてもいいなと思いますので、是非よろしくをお願いします。</p>
会長	<p>それでは次第の 3「その他」に入りたいと思います。事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>そうしましたら「その他」についてですが、議事録の承認についてでございます。前年度と同様に各委員さんに送らせていただき、各自のご発言を確認いただいたものを調整し、最終のものを議事録署名人の委員さんにご承認いただくことにさせていただきますたいと思います。</p> <p>今回の会議のご確認をいただく議事録署名人は、昨年度同様に、会長・副会長を除く名簿の最初の方と最後の方でお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
会長	<p>皆さま、よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>はい。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。そうしましたら、名簿順に河野委員と杉岡委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいいたします。</p>
会長	<p>そうしましたら、どうもありがとうございました。それでは、本日の会議はこれで終了させていただきます。</p> <p>今回は資料 1 にもありますように、第 1 回とありますがこれは平成 26 年度第 1 回ということで。</p>
事務局	<p>すみません。資料 1 の第 1 回は 26 年度の 1 回で、1 回です。今年度終了させていただきますたいと思います。</p>
会長	<p>第 1 回だけしか書いていませんけど、27 年ですけど 26 年度の第 1 回。</p>
事務局	<p>27 年度もまたこういう形でご報告を中心にお集まりいただいて、ご意見を頂戴したいと思いますので、またご案内させていただきますので、その節はよろしくお願いいたいと思います。</p>
会長	<p>そうしましたら、これで終わらせていただきます。委員の皆様本日はどうもありがとうございました。</p>

川西市廃棄物減量等推進審議会会議公開運用要綱第7条の規定によりここに承認する

平成27年4月

川西市廃棄物減量等推進審議会

会議録署名委員

河野智子

杉岡悟